



リイシリ

博物館だより

令和5年
35号

2/27~

第51回移動展示
博物館ニュース
2022

第51回移動展示「博物館ニュース2022」を開催します。期間中、交流促進施設「どんと」、利尻ふれあい温泉、仙法志郵便局、鴛泊フェリーターミナル（2階）の島内4カ所を回ります。展示を設置している場所とその日程は下記のカレンダーの通りで、時間については各施設の開館・営業時間に準ずるものとします。

この移動展示では、2022年度に、利尻島や当館で話題となった情報や当館の活動についてパネル2枚で紹介いたします。

お気軽にご覧いただける小さな展示ですので、お近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。

発行：利尻町立博物館

住所 〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町136
電話 0163-85-1411
FAX 0163-85-1282
e-mail riishir@museum.or.jp

移動展示 開催日程

日	月	火	水	木	金	土
2/26	27	28	3/1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

- 交流促進施設「どんと」
2月27日～3月5日
- 利尻ふれあい温泉
3月6日～ 12日
- 仙法志郵便局
3月13日～ 19日
- 鴛泊フェリーターミナル
3月20日～ 26日

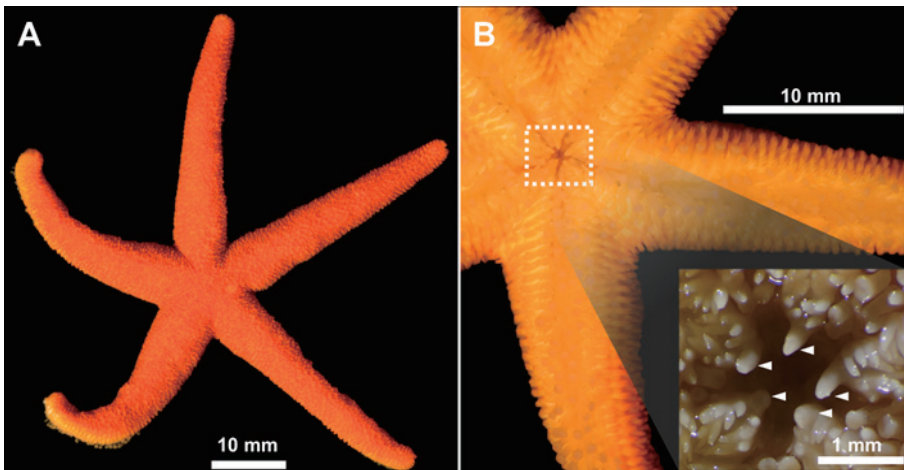
新発見！

利尻島沿岸で 発見された新種のヒトデ

2021年に調査で利尻島へ来島したヒトデ類の専門家、小林格さんが利尻島で新種のヒトデを発見しました。発見者の小林さんにこのヒトデについて紹介していただきます。美しい写真も必見です。

令和3年の夏に行ったシュノーケリング調査により採集されたヒトデがニセヒメヒトデ属の未知の種であることが判明したため、日本動物分類学会の学術誌「Species Diversity」にて新種として報告しました。この新種は体が夕焼け空のような美しい橙色（図A）を示すことから「ユウヤケニセヒメヒトデ」*Odontohentzia occasus*と名付けました。学名の「*occasus*」は夕焼けを意味するラテン語に因んでいます。本属は5本の大きな歯のような口棘（こうきよく）を持つ

ち（図B）、新種はこの棘の先端がのこぎり状であるなどの特徴があります。この棘の役割は解明されていないため今後の研究が待たれます。（東京大学 小林格）



ユウヤケニセヒメヒトデ (A, 背側, B, 腹側 (矢じりは口棘を示す)). (写真は小林さん提供) この標本は新種の報告の際に使われた標本のうちのひとつ。当館所蔵 (RTMECHI 4)。

論文を読みたい方はこちらからダウンロードできます。

Kobayashi, I. & T. Fujita, 2023.

Species Diversity, 28: 45-50.



博物館実習

当館では博物館で働く専門職員である「学芸員」の資格取得のための実習生の受入れを行っています。9月に実習で来館した北海道大学の内田さんの感想をご紹介します。内田さんには、所蔵資料の登録・整理や標本作成、フィールド調査、展示の作成を行っていたいただきました。前号で紹介した川上さんを含む実習生のお二人が作成した展示は来年度以降に館内等での公開を計画中です。

北海道大学理学部4年の内田耕平です。2022年9月5日から6日間にわたり利尻町立博物館でお世話になりました。昨年夏に訪れた時からこの博物館で博物館実習を受けたいと思っており、今回はその思い叶ったの実習でした。仮剥製の製作や磯・湿地帯での生物観察といった実践的な経験から期間中に接近した台風への備え

など様々な業務を体験・見学することができました。

実習中に制作した展示のテーマは利礼航路の海鳥で、実際に2日間乗船して観察を行った結果をもとに航路探鳥（船から鳥を探すこと）を紹介する内容となっております。後日展示していただけるようになりますので、どこかでこの展示を目にした際は海鳥の世界に少しでも興味を持っていただける嬉しいなと思っています。

最終日に杓形岬で行った「利尻を感じてウォーキング」ではごく

短距離の歩行中にもニシン漁に関する史跡や海岸の鳥類、岩場に生息する生き物、さらには溶岩など多くの楽しみ方があることを知りました。幅広い知識の重要さを実感すると共に、様々な楽しみ方が可能な利尻島の魅力を改めて感じました。

最後になりますが、お忙しい中僕の指導を下さった学芸員のお二人には感謝の気持ちしかありません。また必ず来島します。

（北海道大学 内田耕平）



上：利尻 - 稚内間で観察できた真っ白なカモメ科の鳥。正体は？（内田さん提供写真）

下：鳥類（アオバト）の仮剥製標本を作成しました。長く保管するためには丁寧な処理を行うことが大切です。完成した標本は当館で大切に保管しています。

傷病鳥保護

2022年10月～12月は6個体の野鳥の保護と回収を行いました。

- メボソムシクイ、10月4日、交流促進施設どんと、鹿島千佳さん
- コガモ、10月5日、杓形小学校、杓形小学校
- ルリビタキ、10月24日、鷺泊、飛鳥ふみさん
- アトリ、10月25日、仙法志漁組、長谷川和枝さん
- コミミズク、11月7日、森林公園、難波勝子さん
- ウグイス、11月18日、仙法志漁組、長谷川和枝さん

リイシリ購読・閲覧

利尻町内の方には無料でお届けしています。町外の方は1部につき郵送料84円のご負担で定期購読が可能なほか、メール配信も行っております。定期購読については当館までお気軽にお問い合わせください。

なお、本誌は博物館のホームページでも閲覧可能です。最新号のほか、過去2年分のバックナンバーも公開中です。下のQRコードからアクセスしてください。



スマホでアクセスできます！

